

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築評価(2016年版、名古屋建築環境総合性能評価マニュアル2016) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	平和寮新築工事	階数	地上10F
建設地	愛知県名古屋市長穂区下坂町3丁目24番、27番	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	180 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年10月 予定	評価の実施日	2020年05月10日
敷地面積	2,458 m ²	作成者	
建築面積	580 m ²	確認日	2020年05月30日
延床面積	3,031 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.4

★☆☆☆☆ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

100 3.0 1.5 BEE=1.0 0.5 0

0 50 100

0 50 100

環境品質 Q

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 60% 30%

標準計算

建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記 オフサイト手法

0 46 92 138

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能 5 4 3 2 1

Q1 室内環境 Q3 室外環境 (敷地内) LR3 敷地外環境 LR2 資源・マテリアル LR1 エネルギー

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1

5 4 3 2 1

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

3.4 3.1 2.8 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8

5 4 3 2 1

機能性 耐用性 対応性

2.7 3.1 2.6

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.5

5 4 3 2 1

生物環境 まちなみ 地域性・

2.0 3.0 2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2

5 4 3 2 1

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

4.0 3.0 5.0 3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5

5 4 3 2 1

水資源 非再生材料の使用削減 汚染物質回避

3.4 3.6 3.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1

5 4 3 2 1

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3.4 3.0 3.0

3 設計上の配慮事項

総合

利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。

その他

特になし。

Q1 室内環境

開口部遮音性能:T-2以上。日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。

Q2 サービス性能

住居・宿泊部の天井高2.5m以上。床:複合フローリング→30年、壁:ビニルクロス→20年、天井:ビニルクロス→30年。主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用。耐震クラスA。

Q3 室外環境 (敷地内)

特になし。

LR1 エネルギー

日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。

LR2 資源・マテリアル

節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器など)などを用いている。パーティクルボード、合板、複合フローリング、LGSとOAフロアを使用している。ODP=0かつGWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が1以下)を用いた断熱材等を使用している。

LR3 敷地外環境

ライフサイクルCO₂排出率が、一般的な建物(参照値)に対して90%。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

平和寮新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.5
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.5



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。